

### 3. 現行計画の検証

本計画の策定に当たっては、下図に示すように、近年の社会情勢をしっかりと把握することのほか、実現できていないことは何か、今後継続すべきことは何かを整理し、今後の課題を把握するため、「現行計画の検証（進捗状況のチェック）」が重要となります。

そのため、平成 13 年に策定した現行計画について実現したことなどの進捗状況を把握し、【今後の課題】を整理します。

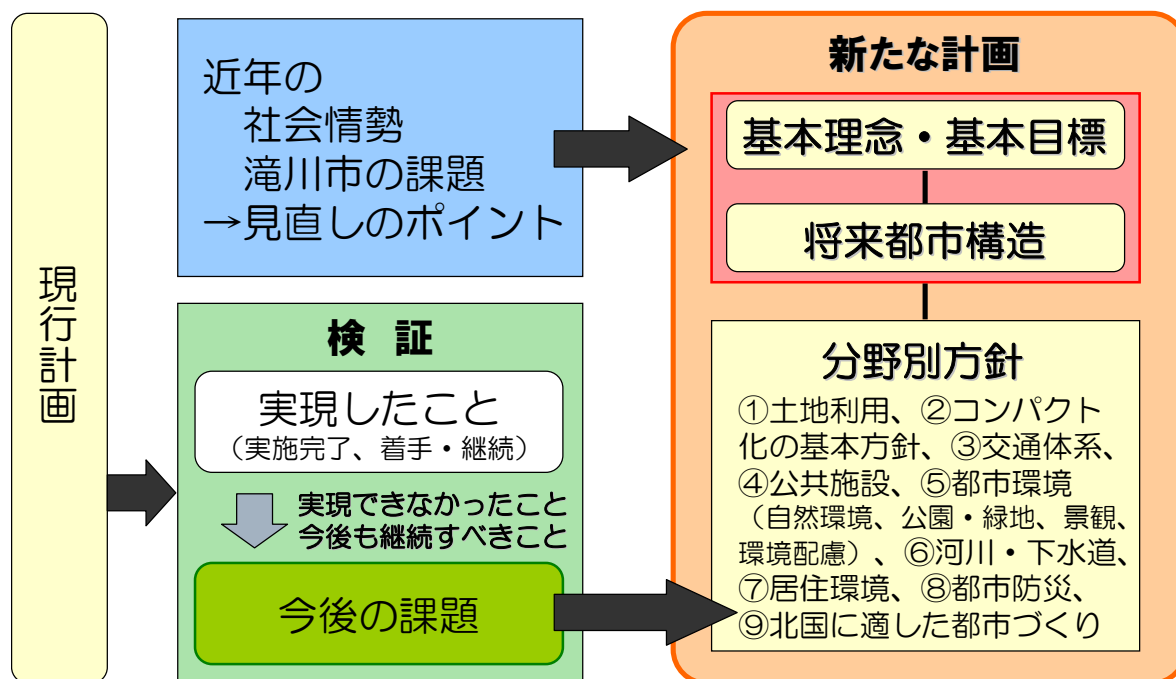


図 2.25 現行計画の見直しフロー

#### 3-1. 土地利用

土地利用については、既存の用途地域を維持しながら、平成 17 年に**滝新地区の地区計画**、**泉町の特別用途地区※(研究研修地区)の設定**により、適切な土地利用を図るためのルールづくりを行ってきました。また、平成 19 年には中心市街地活性化基本計画の認定のために、**準工業地域に大規模集客施設(1万㎡以上の店舗等)の立地制限**を行っています。

今後の課題としては、現状や今後の動向を踏まえた土地利用、交通利便性を活かして都市の利便性と活力向上を図るための土地利用、中心市街地活性化と連携した都市拠点機能の強化、江部乙、東滝川の地区特性に適した土地利用などがあげられます。

#### 【今後の課題】

- ①利便性の向上
- ②土地利用の純化
- ③都市拠点機能の強化
- ④交通利便性を活かした土地の有効活用
- ⑤江部乙・東滝川の地区特性に適した土地利用

※ 特別用途地区：都市計画による地域地区のひとつの категорияで、用途地域の中に地方自治体が指定する地区。特別な目的からの土地利用の増進、環境の保護を目的としており、その目的に沿った建築物の規制などを用途地域より細かくできるもの。

### 3-2. 交通体系

交通体系については、**道道江部乙雨竜線の整備**により中空知圏域の広域的な交通環境整備を実施し、都市内においては、**バリアフリーに配慮した歩行空間整備、除排雪等による冬期の交通機能の確保、道路植栽の整備及び管理、生活道路の整備等**により、交通環境の整備を行ってきました。

今後の課題としては、広域交通においては、交通の要衝としての役割を果たすため、国道の4車線化等による交通環境の整備があげられます。また、都市内交通においては、現状や今後の動向を踏まえた道路計画、維持管理、整備推進とともに、交通体系における環境負荷低減の観点から、公共交通や自転車・歩行者交通の環境整備が重要な課題となります。

#### 【今後の課題】

- ① 道内・中空知圏域の広域交通環境の整備
- ② 市内交通環境の質向上
- ③ 公共交通、自転車・歩行者交通の環境整備

### 3-3. 都市環境

都市環境については、**平和公園やつつじ公園などの中心市街地における公園整備、開西公園などの老朽化した公園の再整備**を実施しました。また、石狩川の河跡湖であるラウネ川の河畔林(石狩川再生の森)整備を実施しているところです。さらに、**緑化樹配布事業による市民主体の緑化の推進等、花や緑の積極的な植栽によるうるおいある景観形成や、資源回収の実施・フリーマーケットの実施・生ごみの資源化など資源のリサイクル、ごみの減量化等**に努めています。

今後の課題としては、貴重な地域資源である河川や丸加高原などの豊かな自然環境の保全や修復、緑化の推進と拡大、そして景観施策の検討と取り組み体制の構築、地域資源の発掘・共有化による地域に適した景観の創出などがあげられます。

#### 【今後の課題】

- ① 自然環境の保全
- ② 自然環境の修復
- ③ 緑化の推進と拡大
- ④ 景観形成における取り組み体制構築
- ⑤ 地域性のある景観の創出

### 3-4. 河川・下水道

河川・下水道については、**石狩川の丘陵堤整備や中小河川であるラウネ川の河川改修**などの河川整備を実施中です。また、市内における**下水道整備は平成16年にほぼ完了し、下水道汚泥の緑農地還元**などに取り組んでいます。

今後の課題としては、ラウネ川・江部乙川などの中小河川の整備を継続的に実施することや、合流式下水道から分流式下水道への移行、下水道処理区域外での合併処理浄化槽の設置による下水道の水質保全、下水道施設等の維持管理があげられます。

#### 【今後の課題】

- ① 中小河川の整備
- ② 河川敷をレクリエーション等として活用
- ③ 下水道の水質保全
- ④ 下水道施設等の維持管理

### 3-5. 住宅整備

住宅整備については、見晴団地(平成 12～14 年)、江陵団地(平成 17～21 年)、駅前団地さかえ(平成 21～22 年)、の建て替えを実施し、平成 20 年度には、今後の住宅・住環境づくりの基本方針となる「住生活基本計画」、公営住宅の整備方針となる「第2次公営住宅ストック総合活用計画」を策定しました。また、公営住宅の高齢化対応設備の整備を着実に進め、住戸内の高齢化仕様整備率が 14%、住棟共用部のスロープ、手すり等の設置率が約 20%、エレベーターの設置率が約 30%（6団地）となっています。

今後の課題としては、公営住宅の既存住宅ストックを有効に活用することが重要となり、既存ストックのバリアフリー対策（高齢化対応住宅）、省エネ化、耐久性向上など、ストック住宅の改善が課題としてあげられます。

#### 【今後の課題】

##### ①ストック住宅の改善

### 3-6. 中心市街地

中心市街地については、平成 20 年に中心市街地活性化基本計画を策定し、中心市街地の活性化推進に取り組んでいます。その他、駐車場・駐輪場の整備、駅前広場の花壇造成等により環境整備を進め、沿道景観等の整備による沿道商業空間の整備、駅前団地さかえの新設、共同住宅支援事業の創設により街なか居住の推進を行ってきました。

今後の課題としては、図書館の移転をはじめとした中心市街地の拠点機能の強化に努めるほか、共同住宅支援事業の継続等により街なか居住の推進が課題としてあげられます。また、歩道のバリアフリー化等により歩行空間の整備を進め、良好な交通環境を活かし、沿道の商業・業務機能の集約が重要な課題として考えられます。

#### 【今後の課題】

- ①中心市街地の都市機能集積・拠点機能強化
- ②街なか居住の推進
- ③歩行空間の整備
- ④沿道の商業・業務機能の集約

### 3-7. 公共施設

公共施設については、市立病院の現地建替事業を実施中のほか、「こどもセンターめもる」を開設し、公共施設の整備を進めてきました。また、平成 21 年に江部乙小学校、明苑中学校の耐震化を完了するなど教育施設の耐震化を順次進め、花月児童館(兼 公民館)の整備などのコミュニティ施設の整備、中空知衛生組合施設リサイクリーンの稼働や可燃ごみの民間委託（H25 年度に民間撤退後、代替処理施設を計画中）などによりゴミ処理施設の改善を進めています。

今後の課題としては、これまでの整備中心から既存施設の維持・活用へ方向転換を図り、バリアフリー・ユニバーサルデザイン※に配慮した公共施設の整備促進や既存施設の耐震化、長寿命化の推進が課題としてあげられます。

#### 【今後の課題】

- ①バリアフリー・ユニバーサルデザイン化
- ②既存施設の有効活用

※ ユニバーサルデザイン: 文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに誰もが利用することができる施設・製品・情報の設計(デザイン)をいう。

### 3-8. 都市防災

都市防災については、平成 19 年に**耐震改修促進計画※**を策定し、公共のみならず民間も含めた建物の耐震化を進めるなど、都市施設の整備を実施しました。また、**災害訓練・演習の実施、自主防災組織(8団体 43 町内会)の設立を促進**するなど、地域防災力の強化に努めています。

その他、**小型除雪機貸与事業、融雪槽設置費補助交付金制度などの雪害対策、水防訓練の実施や滝川排水機場・池の前排水機場等の維持管理などの水害対策**を実施しています。

今後の課題としては、街区公園の整備、各都市施設の更新・維持・耐震化等による都市の安全性強化や自主防災組織の育成促進、市民参加の防災訓練の実施、地域との連携体制の設立による地域防災力の強化があげられます。

#### 【今後の課題】

- ①都市の安全性強化
- ②地域防災力の強化

### 3-9. 雪や寒さを生かしたまちづくり

雪や寒さを生かしたまちづくりについては、**地区計画により堆雪スペースを確保**するなど、積雪地に適した市街地の形成に努めました。また、**冬季のマナー等についての住民への情報提供・指導等**による除排雪の円滑化、**丸加高原において「アウトドア体験ランド」を開催**するなど、冬を生かした地域振興に取り組みました。

今後の課題としては、積雪寒冷地に適した市街地形成を継続して進め、道路情報等を円滑に提供する仕組みの検討などにより冬に強い交通環境の整備を進めることがあげられます。また、雪エネルギーの利活用に関する調査・検討などによる雪エネルギーの活用、新たなスポーツ・レクリエーション等の研究・普及、冬を生かした観光・産業の振興など、冬を生かした健康づくり・地域振興などがあげられます。

#### 【今後の課題】

- ①積雪地に適した市街地形成
- ②冬に強い交通環境の整備
- ③雪エネルギーの活用
- ④冬を生かした健康づくり、地域振興

※ **耐震改修促進計画**: 阪神大震災の教訓から、1995 年 12 月 25 日より耐震改修促進法が施行されており、建築物の耐震診断及び耐震改修の促進を図るための計画。

## 4. 市民のニーズから把握できる今後の都市づくりの方向性

### 4-1. コンパクトな都市づくり

現在の都市づくりに関する満足度については、特に「まちのにぎわいや活気」や「道路の除排雪」に関する満足度が低くなっています。一方で、都市の拡大よりコンパクトな都市づくりについて賛成する意見が約6割と多く、都市のコンパクト化への意向が高くなっています。

これらの結果から、まちのにぎわいや活気の創出、道路の除排雪を含めた効率的・効果的な都市の維持管理を実現するため、今後はコンパクトな都市づくりを進めることが重要と考えられます。

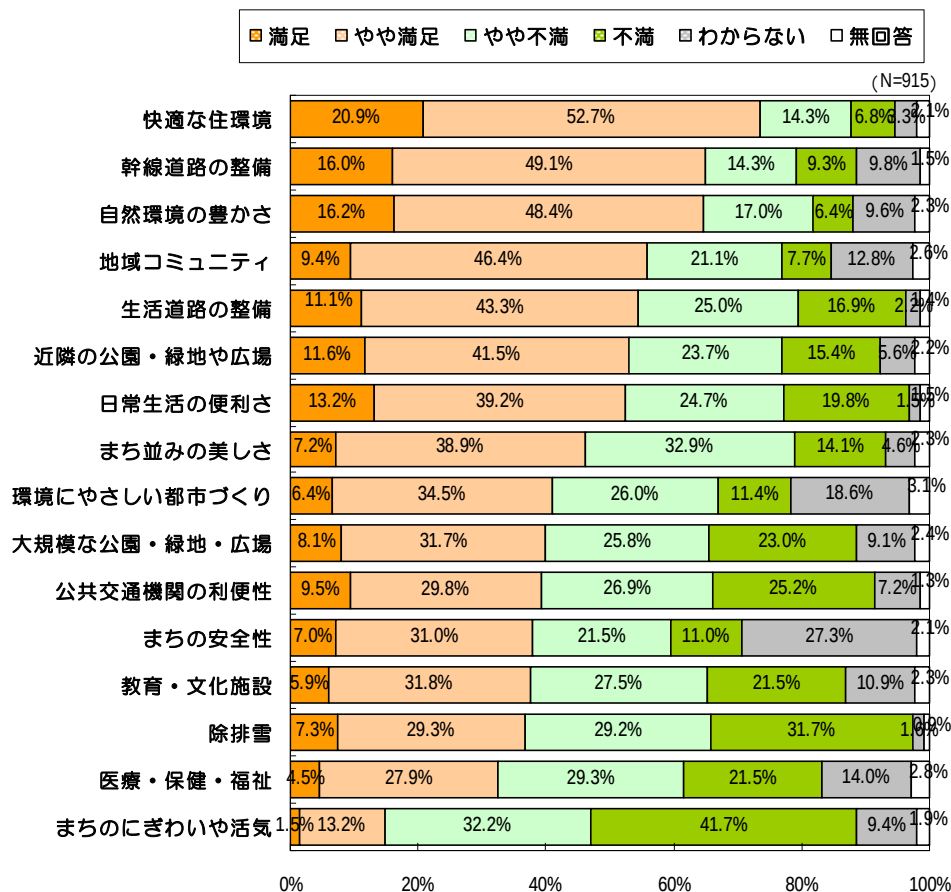


図 2.26 都市づくりに関する満足度

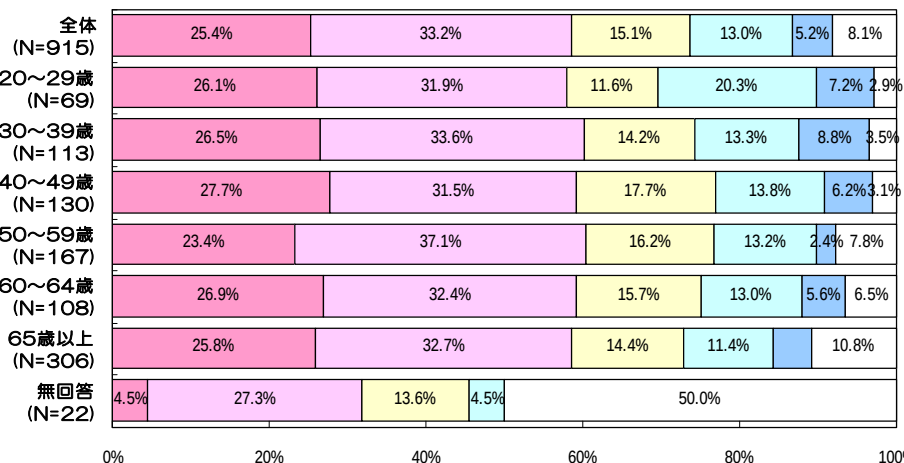
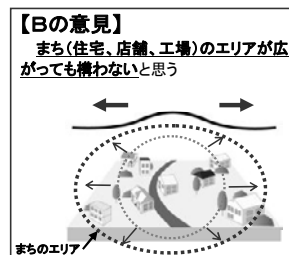
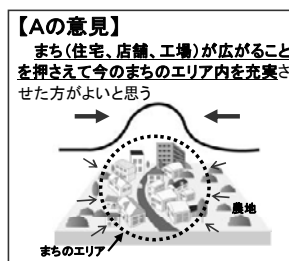


図 2.27 コンパクトな都市づくりに関する意向



## 4-2. 利便性の高い都市づくり

今後の日常生活については、歩いて買い物できる環境づくり、公共交通の充実が重要となる一方で車を利用する生活との両立が重視されており、また、今後は利便性の良いところに住みたいという意向が高くなっています。今後の都市づくりのあり方については、「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市、「利便性がよく、暮らしやすい」都市への意向が高く見られます。

これらの結果から、車を利用する生活に配慮しながら、公共交通を軸として生活利便性が確保できる都市づくり、少子高齢化社会に対応した利便性の高い都市づくりが求められています。

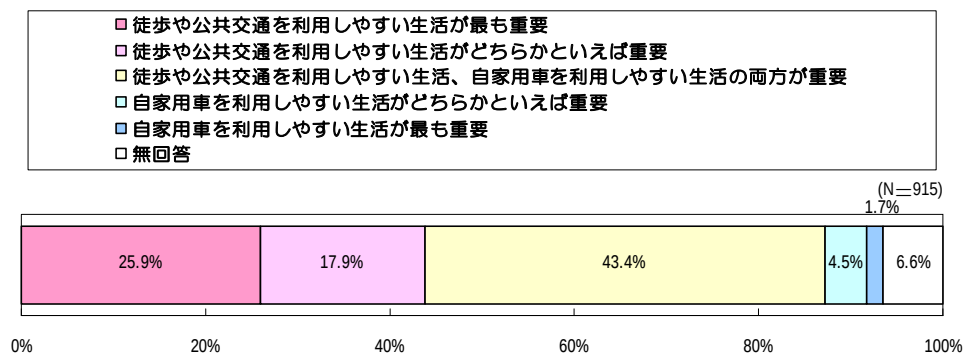


図 2.28 今後の日常生活

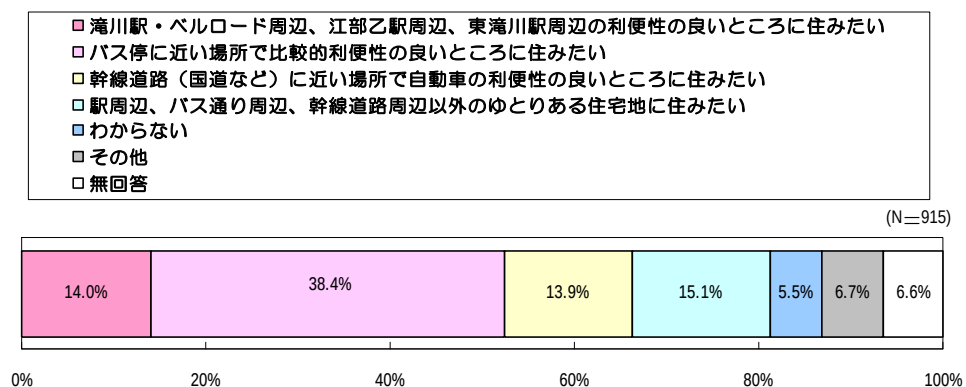


図 2.29 今後の住まい方

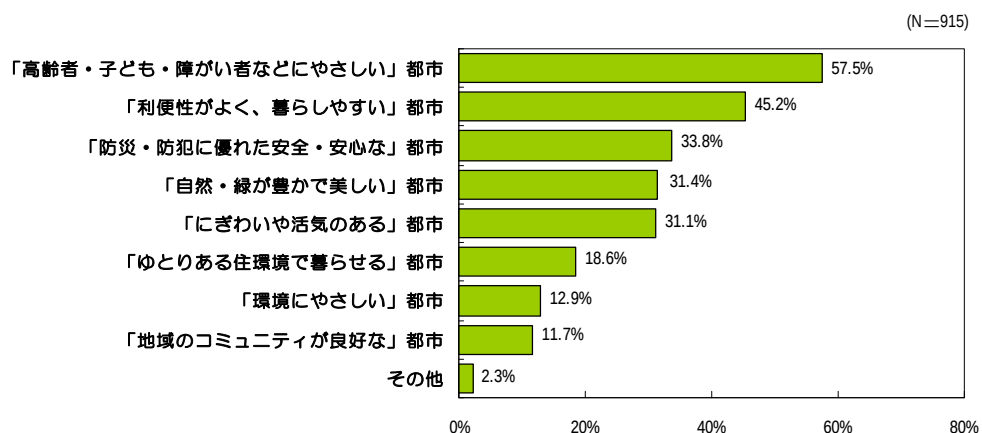


図 2.30 都市づくりのあり方

4-3. 市民と協働で進める都市づくり

これからの都市づくり活動のあり方については、行政主体と地域住民主体のまちづくり活動への意向がほぼ同じ割合で見られます。また、都市づくり活動への参加意向が約4割と市民の関心度が高く、その具体的な活動内容の意向では、少子高齢化に対応する都市づくり活動への関心が高くなっています。

これらの結果を踏まえ、今後は市民の都市づくりへの参加を促進し、これまでの市民活動に加え、高齢者等への支援などを中心とした活動を行うなど、市民と行政が協働で進める都市づくりへと方向転換を図ることが必要と考えられます。

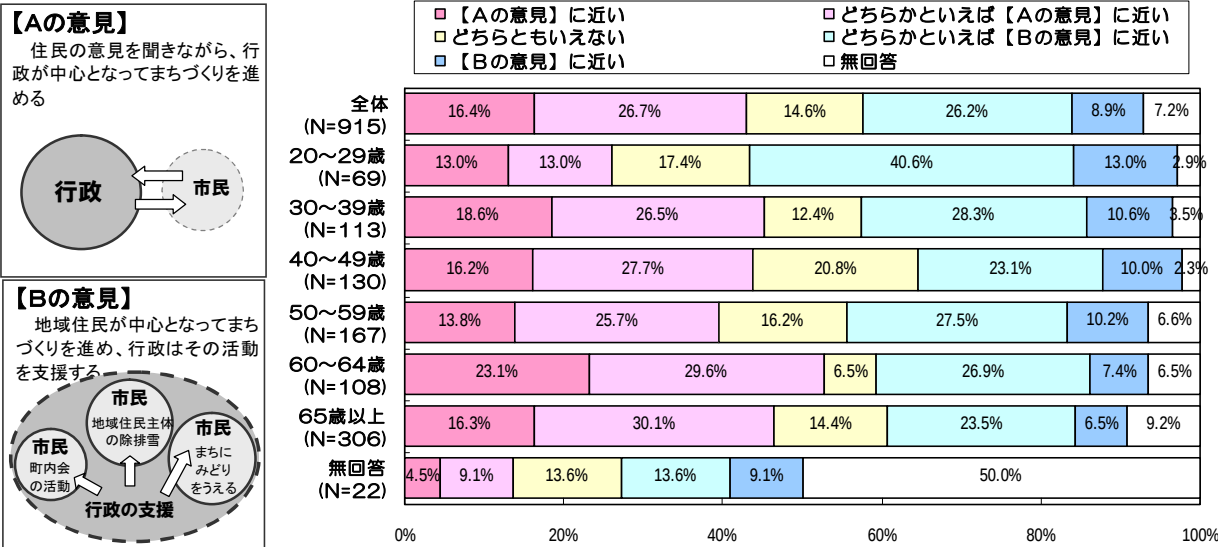


図 2.31 都市づくり活動に関する意向

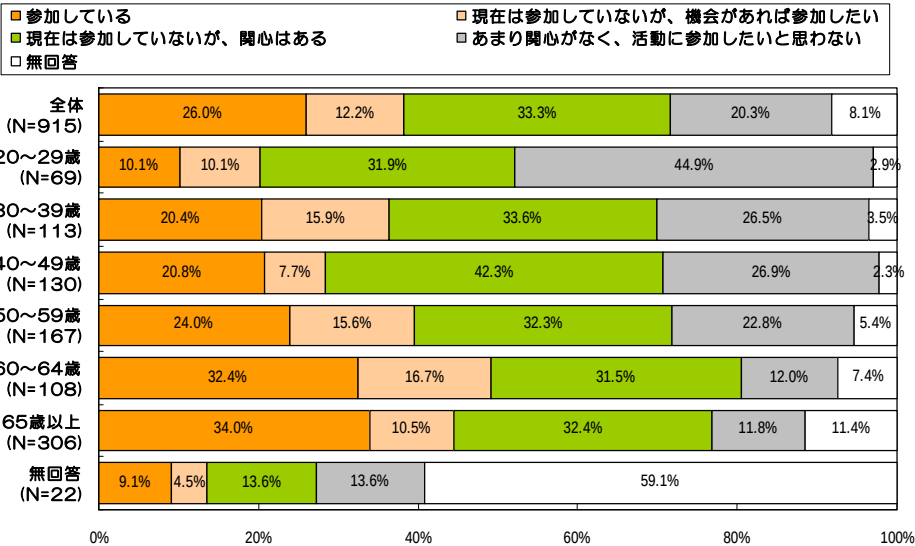


図 2.32 都市づくり活動への参加意向

◆調査概要: 滝川市内の満 20 歳以上の市民 2,500 人（滝川市街地 2,000 人、東滝川地区 250 人、江部乙地区 250 人）に対し、平成 21 年 6 月 5 日～15 日の期間、郵便での配布、回収によるアンケート調査を実施

◆調査内容: ①現在の都市づくりの満足度、②これからの暮らしや都市のあり方、③住民参加、④回答者の属性

◆回収結果

※7月17日

回収分まで有効

|     | 滝川市街地 | 東滝川地区 | 江部乙地区 | その他 | 無回答 | 計     |
|-----|-------|-------|-------|-----|-----|-------|
| 配布封 | 2,000 | 250   | 250   |     |     | 2,500 |
| 回収数 | 685   | 95    | 88    | 20  | 27  | 915   |
| 回収率 | 34.3% | 38.0% | 35.2% |     |     | 36.6% |

## 5. 都市づくりの方向性

「2. 滝川市の都市づくりにおける課題」と「3. 現行計画の検証」、「4. 市民のニーズから把握できる今後の都市づくりの方向性」を踏まえて、今後の都市づくりの方向性は次のように整理できます。

### 5-1. 持続可能なコンパクトな都市づくり

人口減少に対応した生活利便施設等の再配置や超高齢社会に対応した暮らしやすい市街地形成、農業地域への市街地の拡大抑制、都市の維持管理コストの縮減など、持続可能なコンパクトな都市づくりを進めます。

### 5-2. 緩和・強化のメリハリある土地利用の見直し

生活利便性と安全・安心な暮らしの両立や自家用車中心の市民生活の実情への対応、未利用地の有効活用、都市的土地利用の抑制による田園景観・自然環境の保全など、緩和・強化のあるメリハリある土地利用の見直しを進めます。

### 5-3. 都市の活力増強や地域活性化の実現

4車線道路等（重要な幹線街路）の活用による土地利用形成や中心市街地活性化・街なか居住を推進する土地利用の適正な配分、人口・世帯数の減少に対応した土地利用密度向上など、都市の活力増強や地域活性化を進めます。

### 5-4. 土地利用・地区の集約化に連動した交通の実現

広範囲な生活行動・都市活動を支える広域幹線道路の整備や交通弱者の円滑な移動を支える公共交通ネットワークの整備、環境に配慮した交通手段の充実、既存道路を有効活用した適正な道路計画など、土地利用・地区の集約化に連動した交通の計画・整備を進めます。

### 5-5. 市民と協働で進める都市づくり

少子高齢化で多様化する市民のニーズに対応した都市づくり、「いつまでも住み続けたい、いつかは住みたい滝川市」の持続、コミュニティを核とした都市づくりなど、市民と協働で進める都市づくりを進めます。